

水路

ほうつほうつと螢が飛ぶ……
しとやかな柳河の水路を、
定紋つけた古い提灯が、ぼんやりと、
その舟の芝居もどりの家族を眠らす。

ほうつほうつと螢が飛ぶ……
あるかない月の夜に鳴く虫のこえ、
向ひあつた白壁の薄あかりに、
何かしら燐のやうなおそれがむせぶ。

ほうつほうつと螢が飛ぶ……
草のにはひする低い土橋を、
いくつか棹をかがめて通りすぎ、
ひそひそと話してる町の方へ。

ほうつほうつと螢が飛ぶ……
とある家のひたひたと光る汲水場に
ほんのり立った女の素肌
何を見ているのか、ふけた夜のところに。

北原白秋「思ひ出」より

「名勝水郷柳河」主要川下りコース沿いにおける夜間景観基本計画

城下町の構成と白秋の詩歌の世界を体感する夜間景観ストーリー

柳川市 令和2年3月

「名勝水郷柳河」主要川下りコース沿いにおける夜間景観基本計画 目次

1. 計画の概要	1
1-1. 計画策定の目的	
1-2. 計画の対象	
1-3. 計画策定プロセス「柳川照明探偵団」	
2. 「名勝水郷柳河」らしい夜間景観形成に向けた基本方針	4
2-1. 「名勝水郷柳河」の本質的価値	
2-2. 目指す方向性	
2-3. 夜間景観のコンセプト	
3. 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」の夜間景観基本計画	7
3-1. 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」について	
3-2. 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」の夜間景観基本計画	
4. 計画の実施	25
4-1. 整備の進め方イメージ	
4-2. 「柳川市景観計画」による運用（夜間景観形成基準）	
4-3. 夜間景観の質を維持する体制「柳川照明調整団」	
参考資料：市民ワークショップ「柳川照明探偵団」における意見	33

1. 計画の概要

1-1. 計画策定の目的

柳川市では、平成24年に「柳川市景観計画」「柳川市景観条例」を定めて各地域の景観形成に取り組んでいるが、今後さらに地域景観の質の向上を目指すには、昼間だけでなく夜間の景観についても積極的な取り組みが求められる。

人が過ごす時間の半分は夜間であり、特に昼間人口よりも夜間人口が多い柳川市では、市民が地域で過ごす時間をより豊かにするために夜間景観の質の向上が重要な課題と言える。また、現在日帰り客中心の柳川観光において、滞在時間の延長、宿泊客数の増加による経済効果の拡大を実現するためにも夜間の魅力ある資源を充実させていくことが有効である。

こうした観点から本基本計画では、夜間景観の質の向上に取り組むモデル的なエリアとして、国の名勝に指定された「水郷柳河」をめぐる「主要川下りコース沿い」を対象とし、夜間景観の目指す方向性、実現イメージ、実施体制を示している。

夜間景観の質の向上が、柳川市民の「ふるさとの風景」、柳川を訪れた方の「思い出の風景」をより良いものとしてかたちづくり、これからも柳川が愛される地域であり続けることが、本基本計画が目指す未来である。

* 柳川市の昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）は92.4【平成27年国勢調査】

1-3.計画策定プロセス「柳川照明探偵団」

柳川の夜間景観の良いところ(英雄)と改善すべきところ(犯罪者)を探す市民ワークショップ「柳川照明探偵団」を2回実施した。なお開催にあたっては、照明デザイナー・面出薫氏及び株式会社ライティングプランナーズアソシエーツの協力を得た。

第1回(令和元年(2019年)5月9日)は、面出薫氏の講演の後、川下りコース沿いの夜間景観を船上から調査し、発見した夜間景観の英雄と犯罪者を地図上にポストイットで貼り出し、全体で共有を行った。

第2回(令和元年(2019年)6月10日)は、川下りコース沿いの夜間景観を歩いて調査し、発見した夜間景観の英雄と犯罪者及び夜間景観についての提案を地図上にポストイットで貼り出し、参加者全員で共有した。

全2回のワークショップによって、船上と陸上双方の視点から夜間景観の良いところ(英雄)と改善すべきところ(犯罪者)を、市民、行政職員、専門家で現地を回って発見・共有した。そこで得られた意見(詳細は参考資料参照)を踏まえて本基本計画を策定した。



2. 「名勝水郷柳河」らしい夜間景観形成に向けた基本方針

2-1. 「名勝水郷柳河」の本質的価値

日本を代表する詩人・北原白秋は、生涯を通して自らの作品の中で故郷への思慕を歌い上げた。当時の柳河のまちは、かつての城下町の風情や掘割の水とともにある暮らしの名残を残しつつも、我が国の急速な近代化から取り残されたまちでもあったと考えられる。白秋はそれを「静かな廃市」と呼び、「さながら水に浮いた灰色の樞」と表現した。また、懐旧の念を込めて、柳河の水景を「遠く近く瓏銀(ろうぎん)の光を放っている幾多の人工的河水」と記した。(中略)

名勝水郷柳河の掘割の水面及びそれらに臨み緑樹に覆われた神社境内等は、白秋の詩作の源泉となった優秀な水辺の風致景観を誇ることから観賞上の価値が高く、近代都市の水辺が持つ風景美の発見への胎動を表していることから学術上の価値が高い。

白秋の風景へのまなざしは、同時代に生きた明治・大正期の文人たちにとどまらず、福永武彦・大林宣彦・高畑勲などの様々な分野の芸術家たちにも受け継がれ、ひいては今日私達が享受している「水郷」のイメージを形成する母胎ともなった。それは昭和期の掘割の保存運動における原動力となるとともに、今日においても柳川のまちに暮らす市民の誇りを支えている。

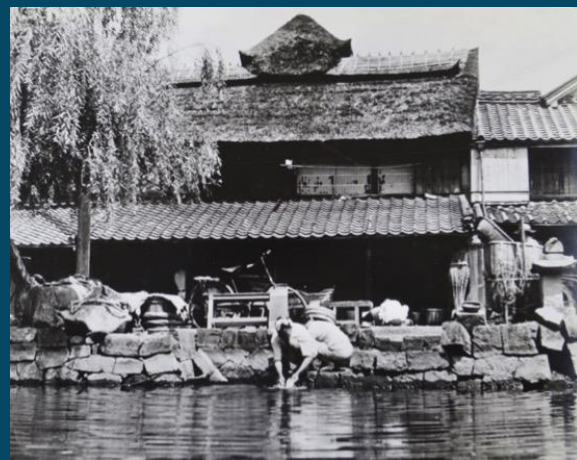


写真:公益財団法人北原白秋生家記念財団所蔵

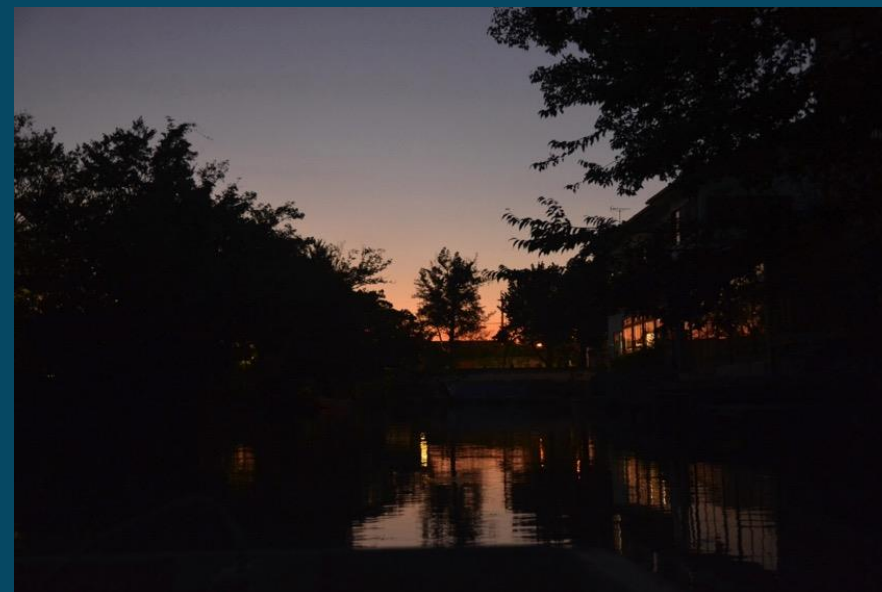
－名勝水郷柳河保存活用計画 名勝水郷柳河の本質的価値より－

2-2. 目指す方向性

白秋の詩作の源泉となった名勝水郷柳河の風致景観は、少しずつ変化しながらもなお受け継がれている。白秋が詠んだ「水路」「汲水場」「白壁」「並倉」は今もあるけれど、その風致を味わえているだろうか。

白秋が見つめ、また懐かしく思い返した風景を白秋が表現した詩・言葉とともにたどりながら、市民や来訪者が、柳川の夜の風致、白秋の詩世を通じた言葉や感覚の美しさを体感できるような夜間景観のストーリーをつむぐ。

華やかな明かりではなく、白秋の詩世感にある、静かに自然光のような優しい夜間景観を目指し、市民、事業者と行政が名勝水郷柳河地区の夜間景観を考え、関わり、魅力を伝えることで、市民が誇るまち、訪れたいまちを目指す。



2-3. 夜間景観のコンセプト

「静かで優しい光」

白秋の詩情を思い起こさせるような、静謐^{せいひつ}で風情のある夜の景色をめざす。華美な照明やまぶしさのある照明は用いず、あたたかみのある優しい光を丁寧に計画する。

「水を感じる光」

柳川らしさの原点でもある水路のある景色を、夜にも感じられるように、映り込みや反射といった、水と光が出会って生まれる表情を大切に照明計画を行う。

ストーリー
「光の紙芝居」

川下りコースに沿って、絵になるシーンをつくる。紙芝居のようにそれらの景色をつなげていくことで、柳川にしかない、物語性のある夜間景観をつくる。



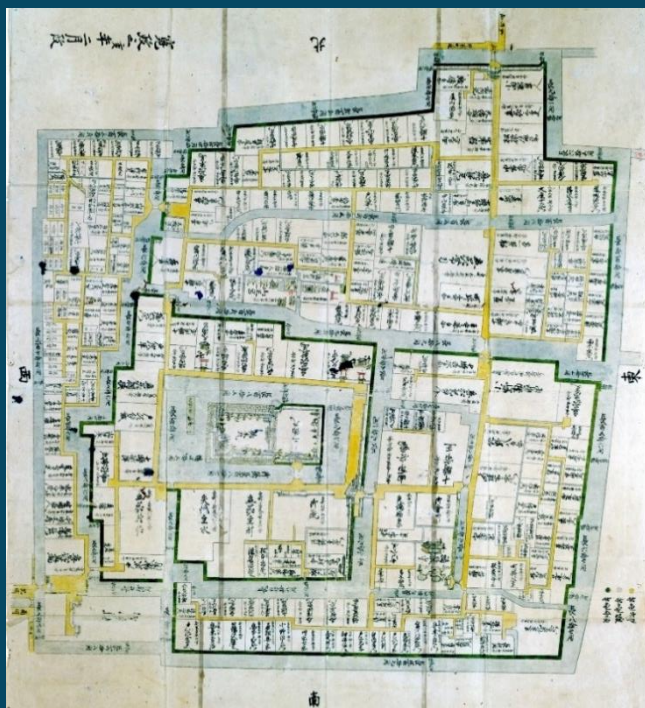
※イメージ写真（参考事例：Banyan Tree Phuket / LPA）

3. 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」の夜間景観基本計画

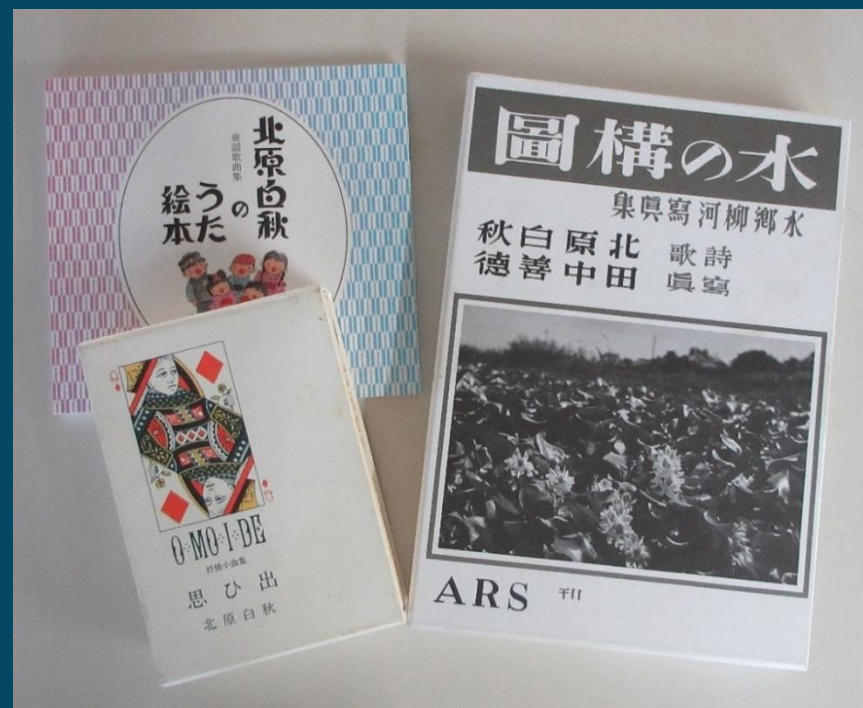
3-1. 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」について

- 城外から柳川城水門(城堀水門)を経て城内に入り、再び城外の沖端に出る川下りコースを、城下町の構成をもとに12のシーンで紙芝居(ストーリー)的に構成する。
- 紙芝居(ストーリー)を「演出するシーン」「静かなシーン」「アイストップ」で構成し、それぞれのシーンにおいて北原白秋の詩歌の世界を体験できるように夜間景観を創出する。

「城下町の構成を体験する」



「北原白秋の詩歌の世界を体験する」



3. 基本計画

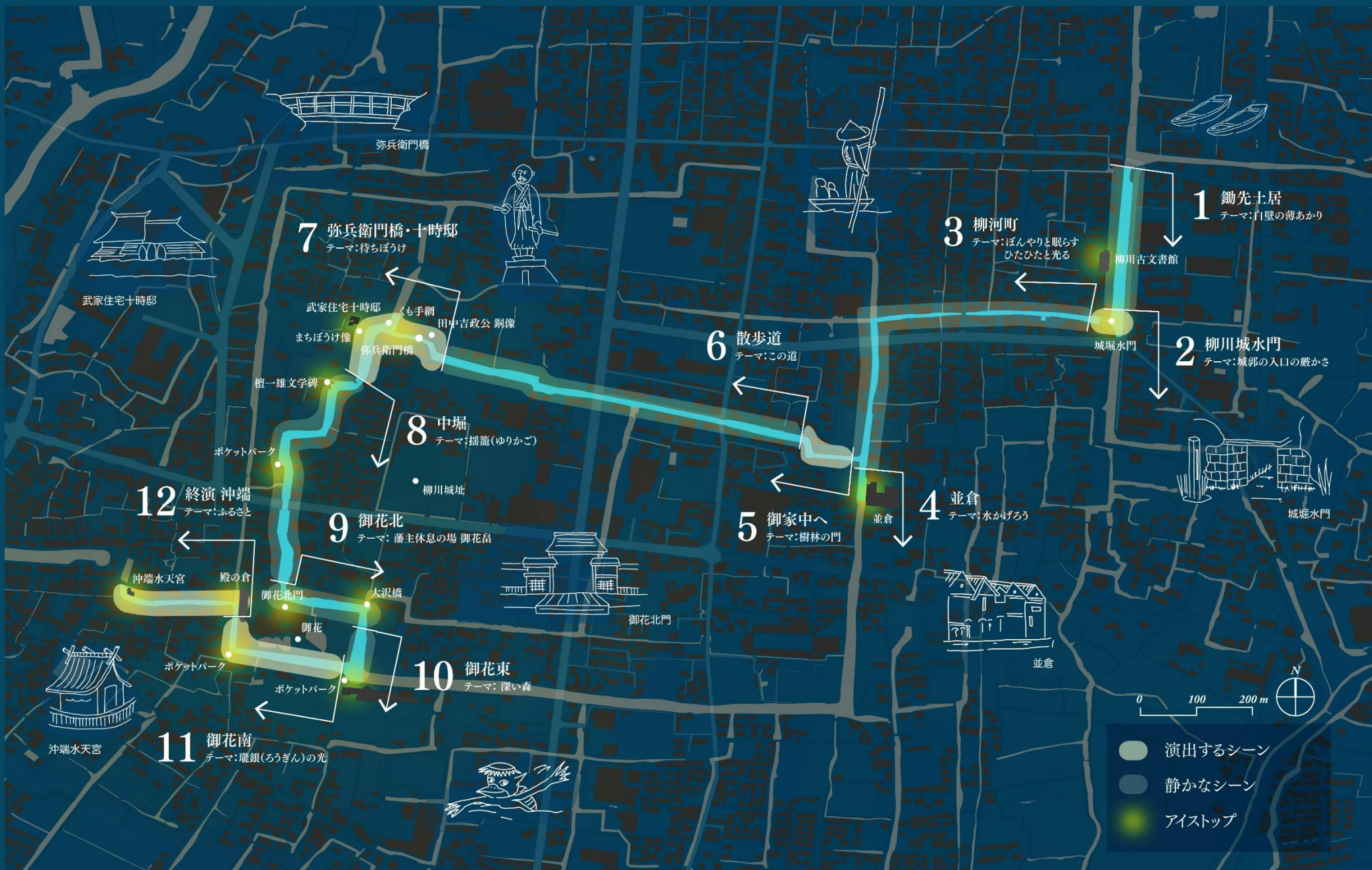


図 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」

Scene 1 鋤先土居 (すきさきどい)

●現状

- ・広い水面が暗く、闇が広がっている印象。対岸の明かりもまばらで、古文書館は、ほぼ闇に沈んでいる。
- ・車道側の街路灯や歩道側の街路灯及びフットライトの照明の色温度が、いずれも違う。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

白壁の薄あかり / 静かなシーン

- 1 水面に映り込む光の要素を整え、豊かな水の景色を意識させる。
- 2 アイストップとなる古文書館の存在を見せる。
- 3 各照明の色温度を統一し、一体感を感じられるようにする。



ほうつほうつと螢が飛ぶ……
あるかない月の夜に鳴く虫のこえ、
向ひあつた白壁の薄あかりに、
何かしら燐のやうなおそれがむせぶ。

【思ひ出水路より】

Scene 2 柳川城水門

●現状

- ・広い水面の水際が暗く、闇が広がっている印象。城内に入るゲートである水門は、夜間には完全に闇の中である。
- ・車道側の街路灯や歩道側の街路灯及びフットライトの照明の色温度が、いずれも違う。

●整備方針

城郭の入口の厳かさ / 演出するシーン

- 1 アイストップでありゲートとなる水門まわりを印象的に照らす。
- 2 水門の横にあるポケットパークの緑を感じさせる。
- 3 各照明の色温度を統一し、一体感を感じられるようにする。

柳河は
城を三めぐり
七めぐり
水めぐらしぬ
咲く花蓮
はなはちす

【水の構図 城趾より】

(現状/昼)



(現状/夜)



ほうつほうつと螢が飛ぶ
しとやかな柳河の水路を、
定紋つけた古い提灯が、ぼんやりと、
その舟の芝居もどりの家族を眠らす。
ほうつほうつと螢が飛ぶ
とある家のひたひたと光る汲水場に
ほんのり立った女の素肌
何を見ているのか、ふけた夜のここに。

【思ひ出水路より】

●整備方針

ぼんやりと眠らすひたひたと光る / 静かなシーン

- 1 アイストップとなっているあめんぼセンターは、引き続き何らかのかたちで照らす。
- 2 橋の下や汲水場の周囲を、場所によってはもう少し明るくしてもよい。
- 3 民有地からの明かりが光の主要素となるので、漏れ光が優しい明かりになるよう、直接光源を水路側に向けない、色温度に配慮する等、近隣住民等の協力が得られるとより望ましい。

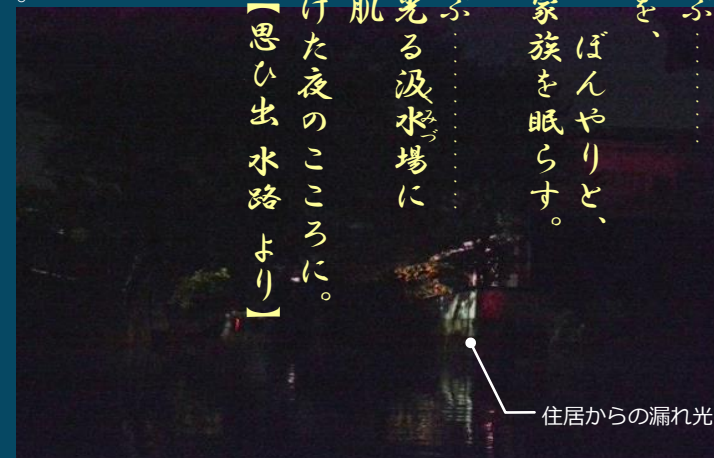
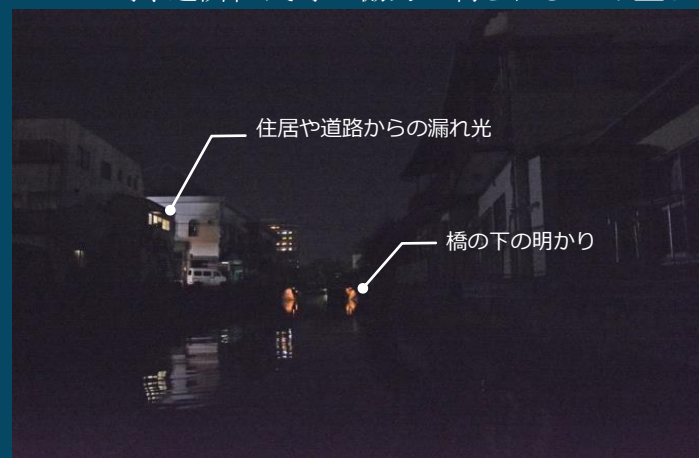
●現状

- ・水路両側は民家が並び、静かな暗さが続く。
- ・生活へのプライバシーも考慮すると、照明を積極的に追加する必要は感じられない。

(現状/昼)



(現状/夜)



Scene 4 並倉

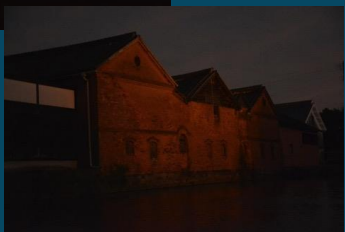
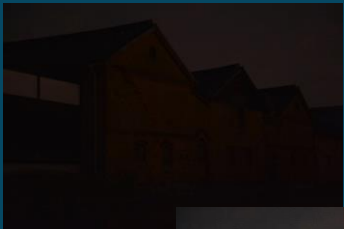
●現状

- ・川下りコースの見どころであるが、夜にはその存在感が闇の中に沈んでいる。
- ・ライトアップ時にはその姿を見ることができるが、昼間ほどのインパクトはないように思われる。

(現状/昼)



(現状/夜)

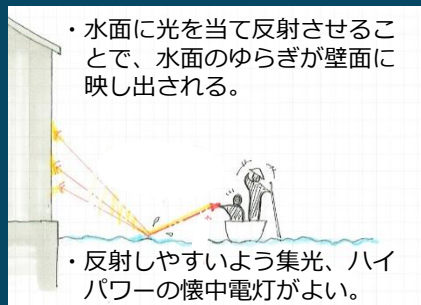


(現状/夜 (ライトアップ時))

●整備方針

水かげろう / 演出するシーン

- 1 川下りの乗船客にセルフライトアップをうながし、白秋が詠んだ「水かげろう」などの光の体験をする夜の見どころとする。
- 2 直接光を当てるのではなく、一度水面に反射させることで、船が進む水面のゆらぎを映し出すことができ、印象的な光の体験となる。



断面イメージ

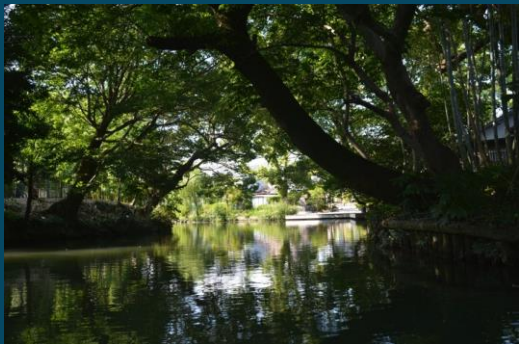


Scene 5 御家中へ

●現状

- ・樹木が覆いかぶさる中に船で入っていくようなシーンで、すでに樹木のライトアップも行われており、印象的な景色となっている。
- ・川下りの船からの目線では、光源が目に入ってまぶしい。
- ・水面に浮かぶ照明がまぶしく人工的な明るさを感じさせる。また、昼間に周囲の景観と調和していない。

(現状/昼)



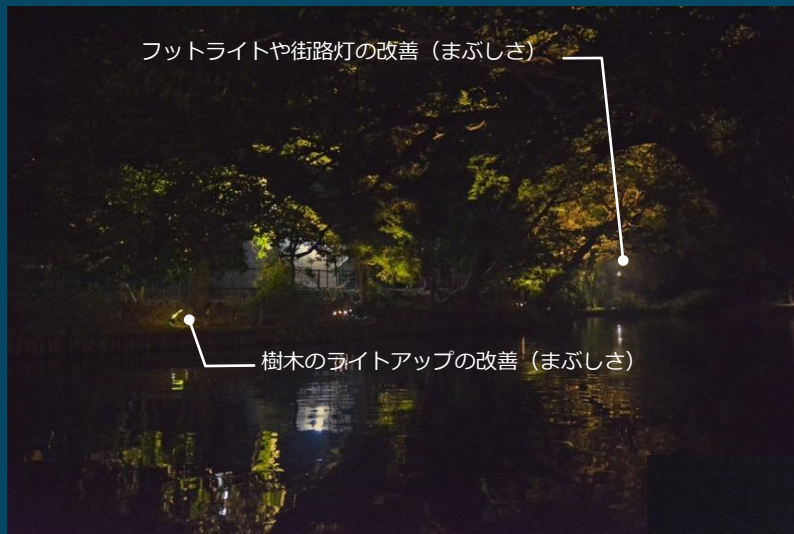
(現状/夜)



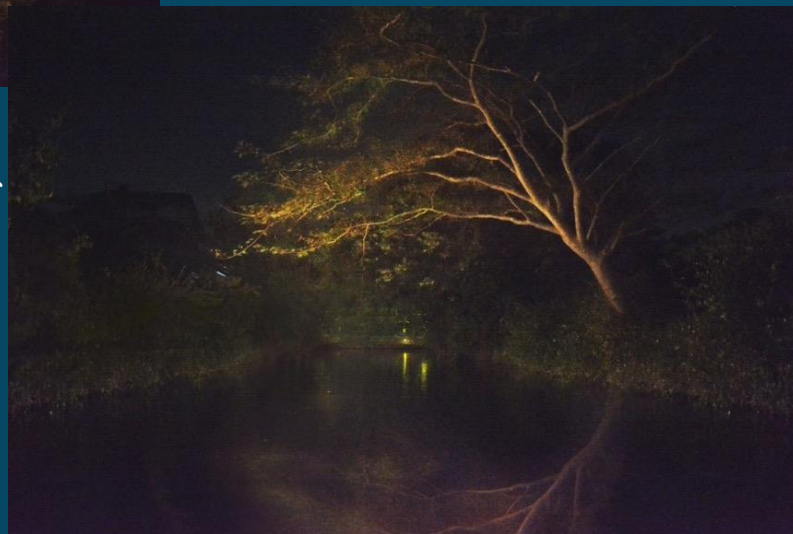
●整備方針

樹林の門 / 演出するシーン

- 1 船上と陸上双方の視点を考慮し、いずれに対してもまぶしさがないように、グレアカットを施す(*光源が直接目に入らないようにする→詳細は4-2の3)参照)などライトアップ手法を見直す。



- 2 豊かな樹木が頭上を覆う様子が美しいシーンとなるので、照明によって演出をするのは、水面よりも樹木を対象とする。
- 3 奥の樹木のライトアップの印象を損ねないように、水面に輝度の強い照明は設置しない。
- 4 水面に照明を設置する必要がある場合、昼間に周囲の景観と調和するように十分に配慮する。



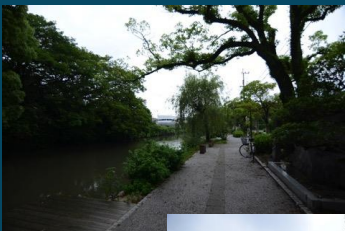
ほうつほうつと螢が飛ぶ……
 草のにはひする低い土橋を、
 いくつか棹をかがめて通りすぎ、
 ひそひそと話してる町の方へ。
 【思ひ出水路より】

Scene 6 散歩道 ①袋町～本町～坂本町

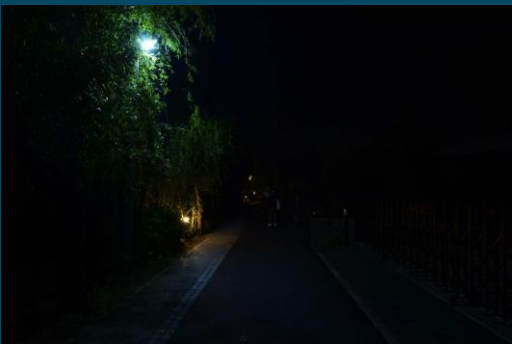
●現状

- ・水路に沿った歩道がまっすぐに続き、穏やかな水の流れを感じながら歩くことができる。電球色のフットライトが水路側に整備されているが、少々輝度が高い。街路灯は白くまぶしい。
- ・船の視点からはよいが、歩道を歩くと、明るさが足りない。

(現状/昼)



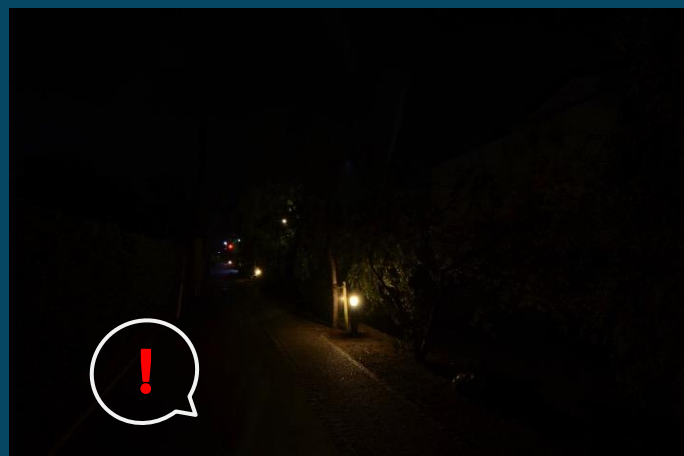
(現状/夜)



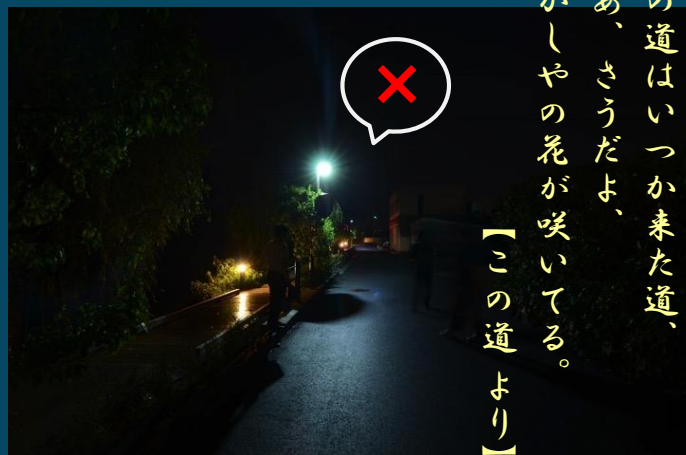
●整備方針 この道 / 静かなシーン



- 1 歩行者用フットライトの輝度を抑える。
- 2 船からもまぶしくないように配慮する。



- 3 心地よく歩けるよう、適切な照度と、明るさ感を確保する。
- 4 歩行者用フットライトの間隔が広すぎて、間が暗いため、歩行者が歩きやすいようにもう少し詰めて配置する。



- 5 街路灯の色温度を電球色にそろえ、かつ、まぶしさが無い灯具とする。



- 6 水路沿いの樹木(柳)や、対岸の明かりなど、鉛直面を照らす明るさがあるとよい。
- 7 フットライトの光や、樹木などを照らす光は、水面への映りこみを意識する。

この道はいつか来た道、
ああ、さうだよ、
あかしの花が咲いてる。

【この道より】

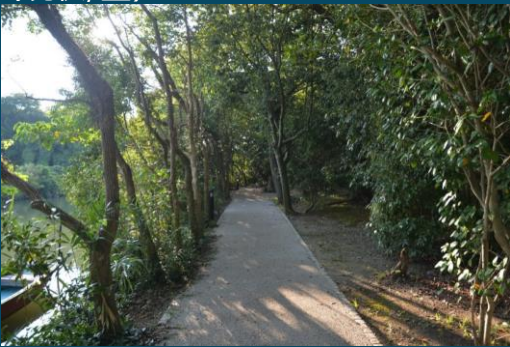
スポットライトの
向きがまぶしいが、
効果は好ましい

Scene 6 散歩道 ②城跡と境内林

●現状

- ・昼間は豊かな緑の中の散歩道であるが、夜間はうっそうとしていて暗く、心地よく歩こうという雰囲気欠ける。
- ・歩道にフットライトは設置されているが、輝度が強くまぶしいため、逆に周囲が暗く感じられる要因ともなっている。

(現状/昼)



(現状/夜)

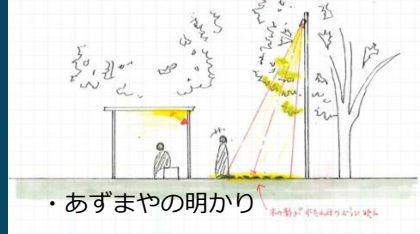


●整備方針

この道 / 静かなシーン

- 1 心地よく歩けるよう、適切な照度と、明るさ感を確保する。
- 2 歩行者用フットライトの輝度を抑える。
- 3 あずまやなどのポケットパークの要素を照らす。

- ・ポール取り付けスポットライト等による路面への明かり



断面イメージ



Scene 7 弥兵衛門橋・十時邸

●現状

- ・水際も周囲の歩道も暗く、見どころとなるはずの像や橋などが存在感をなくしている。
- ・ライトアップされているくも手網はその中で印象的なアイストップとなっている。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

待ちぼうけ / 演出するシーン

- 1 水面にも映り込む光の要素を与え、華やかな景色をつくる。
- 2 弥兵衛門橋や田中吉政公の銅像などの歴史的モニュメントを、印象付けるように適切に照らす。

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
ある日、せつせと、野良かせぎ、
そこへ兎が飛んで出て、
ころり、ころげた
木のねっこ。

【待ちぼうけより】

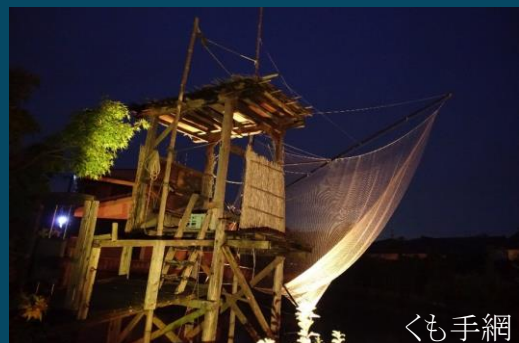
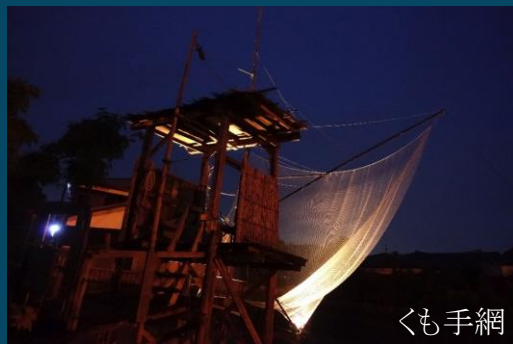


Scene 7 弥兵衛門橋・十時邸

●印象的な照らし方の例



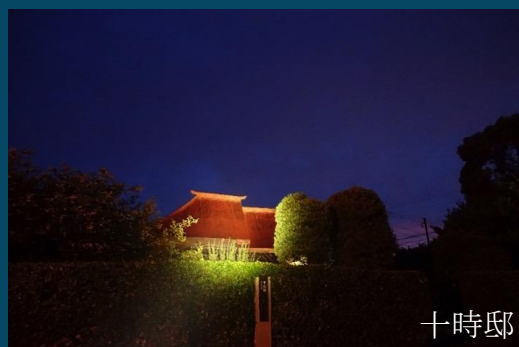
田中吉政公像は、周囲の樹木も照らすことで奥行き感を出し、より象徴的に見せる。(写真は実証実験結果)



くも手網は、歩道側からも含めてさらに存在感を増すように、やぐら部分も照らす。
(左は現況、右は実証実験結果)



まちぼうけ像は、愛らしさを表現するためにお尻のほうを照らす。(写真は実証実験結果)



十時邸は、存在感を増すため赤い屋根根を照らす。(写真は実証実験結果)

Scene 8 中堀 (なかぼり)

●現状

- ・水路の幅が広く、水面は暗い。
- ・周囲の明かりがナトリウムランプのため、一面がオレンジ色に見える。風情はあるものの、まぶしい。
- ・歩道の柵にはフットライトがあるが、経年により故障しているものも多い。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

揺籠(ゆりかご) / 静かなシーン

- 1 演出的なライトアップは行わないが、水面に映り込む要素となる街路灯やフットライトなどを丁寧に整える。
- 2 親水空間となるポケットパークに明かりを与える。



揺籠のうたを、
カナリヤが歌ふよ。
ねんねこ、ねんねこ、
ねんねこ、よ。
揺籠のゆめに、
黄色い月がかかる、よ。
ねんねこ、ねんねこ、
ねんねこ、よ。
【揺籠のうたより】

Scene 9 御花北 ①御花北門

●現状

- 御花の西洋館は夜間もライトアップされているが、川下りコースでアイストップとして見えてくる御門は、夜間は暗い。

●整備方針

藩主休息の場 御花畠 / 静かなシーン

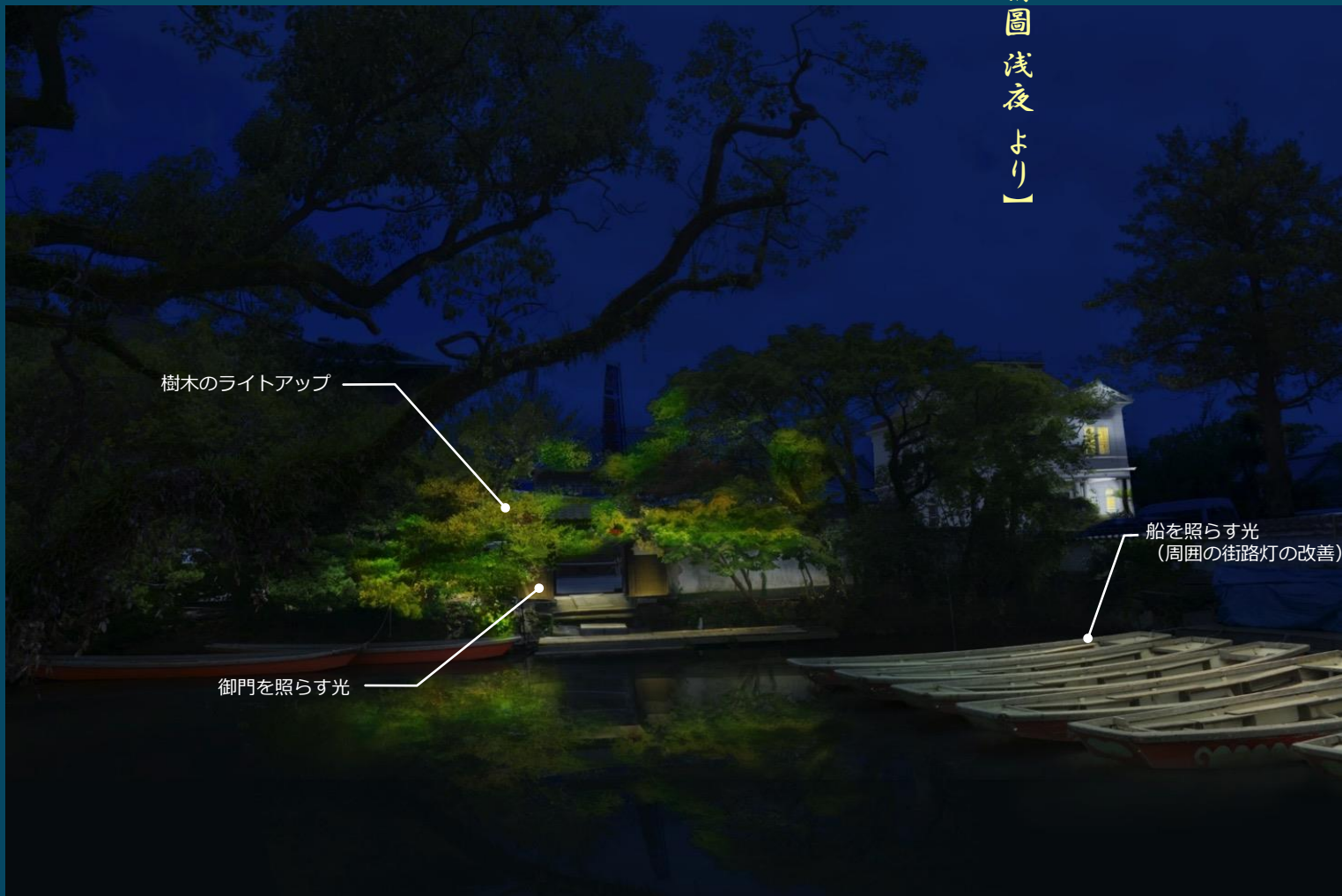
- 御門や周囲の樹木を照らし、闇から浮かび上がらせる。
- 周囲の道路照明も、色温度を統一して雰囲気をよくする。

林泉^{しづみ}や夏の夜
浅き水に
月^{つき}の光を
潜^{かづ}くものあり
【水の構圖 浅夜より】

(現状/昼)



(現状/夜)



Scene 9 御花北 ②大沢橋

●現状

- ・御花に入ってから真っ暗な景色が続く。夜間も何らかのアイストップがあることが望ましい。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

藩主休息の場 御花畠 / 静かなシーン

- 1 大沢橋と周囲の樹木のライトアップを行い、闇から浮かび上がらせる。
- 2 周囲の道路照明も、色温度の統一を行って雰囲気をよくする。



林泉や夏の夜、浅き水に月明かりを潜るものあり
【水の構図 浅夜より】

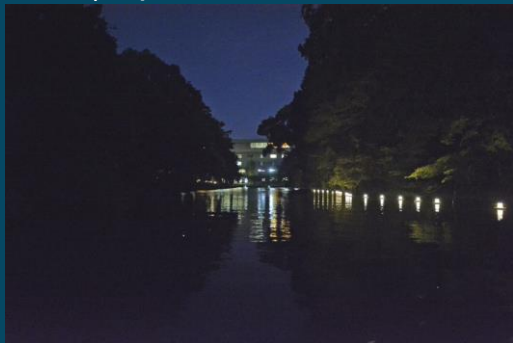
●現状

- ・広い水路の両側が緑となっており、視線の先にはかんぽの宿の明かりがある。
- ・静かな闇と水音を心地よく感じられる。
- ・水面に浮かぶ照明がまぶしく人工的な明るさを感じさせる。また、昼間に周囲の景観と調和していない。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

深い森 / 静かなシーン

- 1 自然のままの夜の暗さを損ねないように、水面に輝度の強い照明は設置しない。
- 2 水面に照明を設置する場合は、昼間に周囲の景観と調和するように十分に配慮する。
- 3 民間施設の窓明かりが、統一感のあるやわらかい明かりになると望ましい。(電球色での統一、カーテン等により光源が直接見えていない等)



●現状

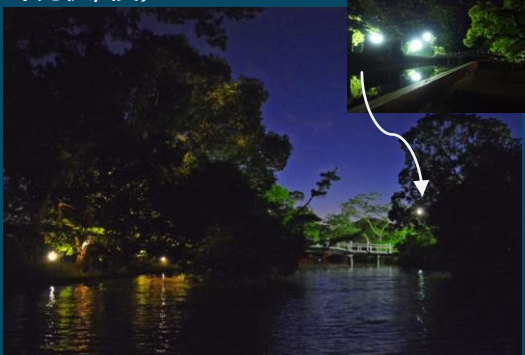
- ・豊かな緑を感じられるが、樹木のライトアップが、船からは、光源が目に入ってまぶしい。
- ・テニスコートの投光器が過剰に明るくまぶしい。
- ・印象的なアイストップの出逢い橋は、前記投光器により明るく見えている。

(現状/昼)



(現状/夜)

テニスコートの投光器



●整備方針

瓏銀(ろうぎん)の光 / 演出するシーン

- 1 船上と陸上双方の視点を考慮し、いずれに対してもまぶしさがないようにする。
- 2 経年によってスポットライトの向きが変わったり、落ち葉に埋もれたりしないよう、維持管理を確実に行う。
- 3 出逢い橋が照らされていると、緑のなかで非常に印象的なアイストップになる。適切なライトアップが行われると望ましい。
- 4 民有地の照明は、陸上だけでなく、船上からもまぶしくないような配慮がされると望ましい。また、色温度は統一されることが望ましい。



わが街に入り来る旅びとは
その周囲の大平野に分岐して、遠く近く
瓏銀^{ろうぎん}の光を放っている幾多の人工的河水を
眼にするであらう。
【思ひ出わが生ひたちより】

Scene 1 2 沖端 ①道

●現状

- ・オレンジ色の街路灯で、柳の風情が感じにくい。
- ・水天宮や殿の倉などのランドマークが夜間は闇に沈んでいる。
- ・水路側のフットライトの色温度が周囲と合っていない。
- ・店舗側に照明がなく、歩道が暗い印象。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

ふるさと / 演出するシーン

- 1 街路灯は改善し、柳を照らす光の要素とする。
- 2 殿の倉のライトアップを行い、アイストップとする。
- 3 水路側のフットライトは、水面に映り込む光の要素として再提案する。
- 4 店舗側へもフットライトを設置することで統一感を演出する。
- 5 まちなみを見せるとともに歩行者へ安心感を与える常夜灯(店舗などからの漏れ光)を推奨する。



人もいや、親もいや、
小さな街が憎うて、
夜ふけに家を出たれど、
せんすべなしや、霧ふり、
月さし、壁のしろさに
こほろぎがすだくよ、
堀の水がなげくよ、
【思ひ出ふるさとより】

Scene 1 2 沖端 ②水辺

●現状

- ・オレンジ色の街路灯で、柳の風情が感じにくい。
- ・水天宮や殿の倉などのランドマークが夜間は闇に沈んでいる。
- ・水路側のフットライトの色温度が周囲と合っていない。
- ・店舗側に照明がなく、歩道が暗い印象。

(現状/昼)



(現状/夜)



●整備方針

ふるさと / 演出するシーン

- 1 街路灯は改善し、柳を照らす光の要素とする。
- 2 水天宮のライトアップを行い、沖端の夜の景色を印象付ける。えびすさんの鳥居もライトアップを行う。いずれも水面への映り込みも意識する。
- 3 水路側のフットライトは、水面に映り込む光の要素として再提案する。
- 4 共同乗船場や汲水場は、段下に間接照明を設置し、水際線を見せる。

人もいや、親もいや、
小さな街が憎うて、
夜ふけに家を出たれど、
せんすべなしや、霧ふり、
月さし、壁のしろさに
こほろぎがすだくよ、
堀の水がなげくよ、
【思ひ出ふるさとより】



4. 計画の実施

4-1. 整備の進め方イメージ

本基本計画に基づく整備や維持管理については柳川市の関係課が横断的に連携し、以下のようなステップで順次取り組んでいくこととする。

期間	内容
短期	1) 現在故障している照明器具の修理 2) 取り除くべき照明の撤去 3) Scene 5、6、7、11の改善 4) Scene 2の新規演出 5) Scene 4のセルフライトアップ
中期	6) Scene 7の演出 7) Scene 12の新規演出
最終	8) Scene 1の新規演出、改善 9) Scene 8の改善 10) Scene 9の新規演出

4-2. 「柳川市景観計画」による運用（夜間景観形成基準）

第2章および3章で示した夜間景観の基本方針、基本計画を実現していくためには、公共空間はもちろんのこと民有地や観光イベント等においても夜間景観に対する一定の配慮が必要である。

そこで、「柳川市景観計画」における「届出対象行為」については、今後以下のような点について配慮していくこととする。

また、イベントや観光事業等についても、夜間照明の内容について柳川市の景観担当部局と協議しながら検討を進めていくこととする。

【夜間景観形成基準】（詳細は次ページ以降参照）

- 1) 「色温度」の低い照明を用いる。
- 2) 緑、石積み、まちなみ、人々の表情が豊かに見える「演色性」の高い照明を用いる。
- 3) 道、船等から見たまぶしさ（グレア）のない快適な光環境をつくる。
- 4) 点滅・動き・派手な色等の過度な演出のない安心感のある光環境をつくる。
- 5) 昼間の景観を損なうことがないように照明器具を設置する。

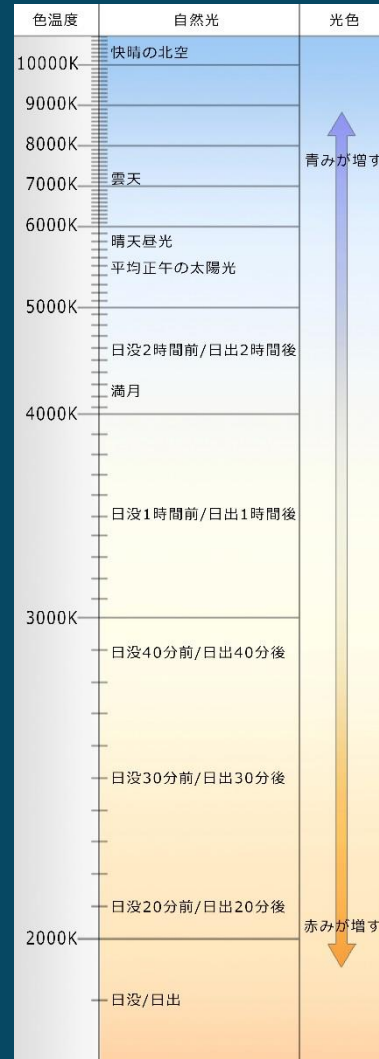
【夜間景観形成基準】

1) 「色温度」の低い照明を用いる。

● 「色温度」とは

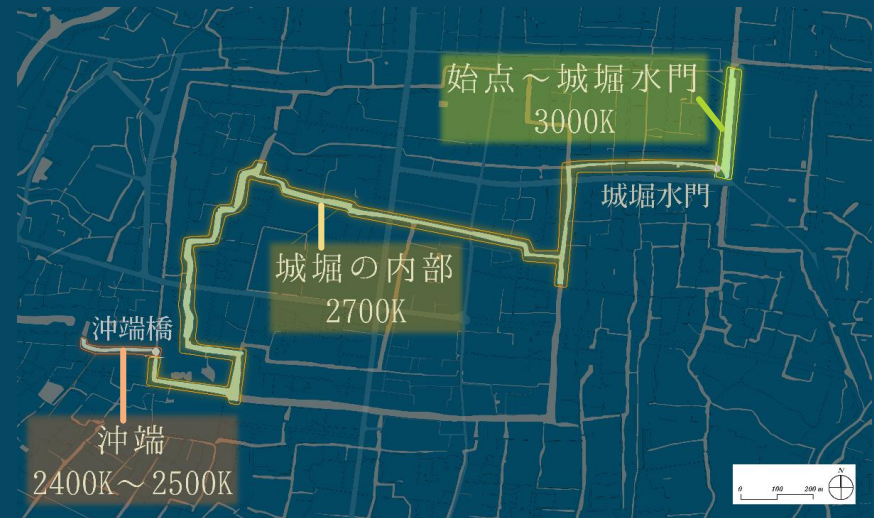
光源固有の色味を表す数値。色温度が低いほど暖色系の光、色温度が高いほど寒色系の光となる。
単位にはK(ケルビン)が用いられる。

人は色温度の高い光(昼の自然光のような光)の下では高揚感や緊張感を感じて活動的になり、色温度の低い光(暖かみのある光)の下では安らぎや高級感をおぼえてリラックスすることが判明している。



● 「色温度」の基準

- 公共で整備する照明は基本的に城堀水門周辺を3000K、城堀を2700K、沖端を2400～2500Kとし、沖端にいくにつれて色温度がより低くなっていくように整備する。
- 民間照明は、公共照明の色温度基準に合わせることが望ましい。光源の細かな選定が難しい場合でも、電球色(3000K)を採用する。



城堀水門から沖端にかけて色温度が徐々に低くなっていくイメージ

【夜間景観形成基準】

2) 緑、石積み、まちなみ、人々の表情が豊かに見える「演色性」の高い照明を用いる。

● 「演色性」とは

光源による色の見え方(再現性)の良し悪しを評価する指標のこと。単位にはRa(アールエー)が用いられる。基準光で見た色の忠実さをRa100(満点)として評価する。

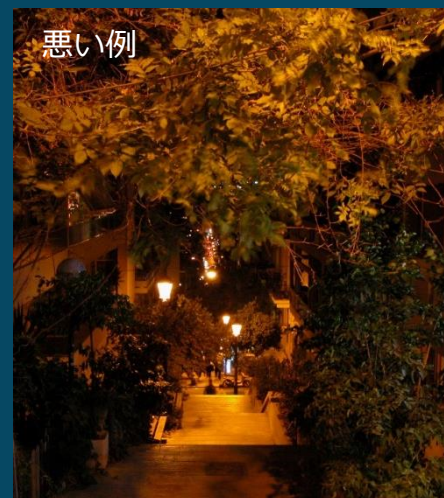
● 「演色性」の基準

- ・ 平均演色評価数 Ra 80以上とする。



Ra=25 (高圧ナトリウムランプ) Ra=88 (蛍光ランプ)

写真: 「光と色の環境デザイン」 日本建築学会より



演色性 (Ra値) の低い照明



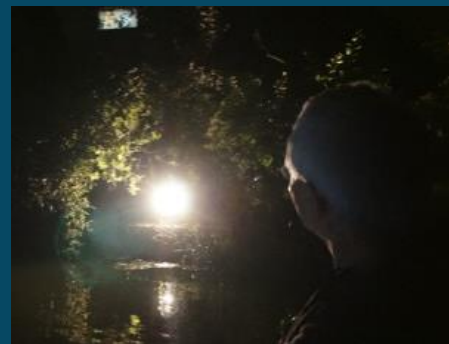
演色性 (Ra値) の高い照明

【夜間景観形成基準】

3) 道、船等から見たまぶしさ（グレア）のない快適な光環境をつくる。

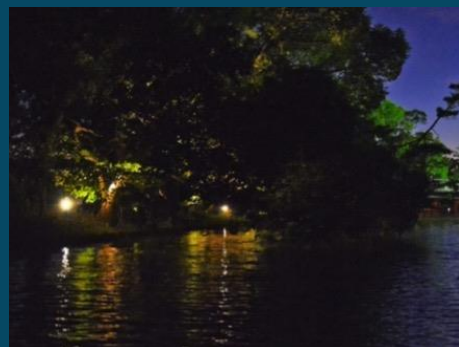
●「グレア」とは

視野の中に極端に輝度が異なるものや光源が入ると、不快感を覚えたり、見えにくくなったりする。このような不要かつ不快なまぶしさのことをグレアという。



グレアの様子

●「グレア」の例



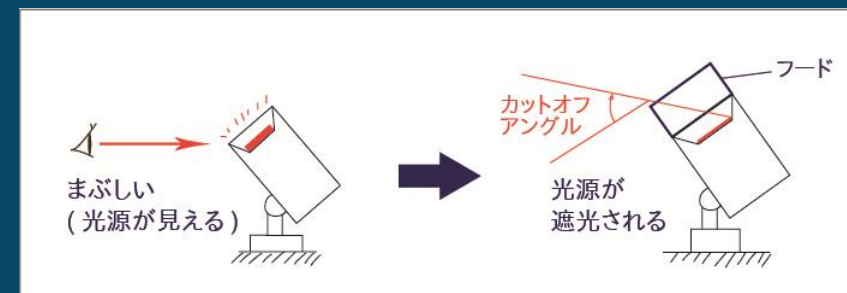
光源が、川下りの乗船客の視線からは目に入ってまぶしい。グレアカット等の工夫が考えられる。
(Scene11)



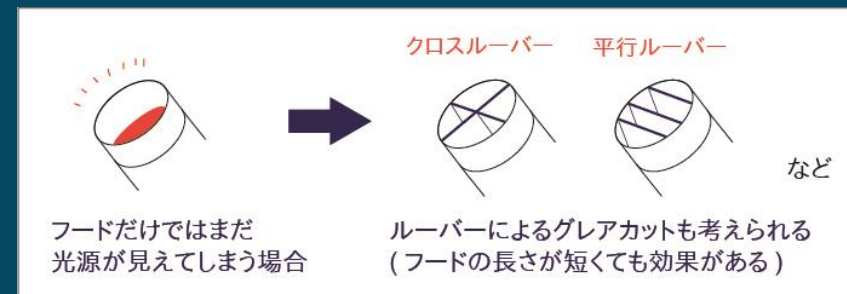
フットライトの輝度が強くまぶしい。グレアカット等の工夫が考えられる。
(Scene 6)

●「グレア」のない光環境の作り方

- ・照明器具の光源の光が直接目に入らないように、光源の向き、グレアカットに配慮する。
- ・発光するタイプの照明は、目に優しい明るさとなるように輝度を抑える。



フードによるグレアカットの工夫 (例)



ルーバーによるグレアカットの工夫 (例)

【夜間景観形成基準】

4) 点滅・動き・派手な色等の過度な演出のない安心感のある光環境をつくる。

●過度な演出の例

点滅を伴う過度な演出の照明は、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気損ねるため使用しない。



●過度な動きの例

動きの激しい電光掲示板等は目立ちやすく、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気損ねるため使用しない。



●派手な色の例

派手な色の照明は、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気損ねるため使用しない。



【夜間景観形成基準】

5) 昼間の景観を損なうことがないように照明器具を設置する。

● 配置

ライトアップ照明やプルボックス、配線等の機器は、昼間に目立つことがないように、できるだけ見えにくい位置を選択して設置する。



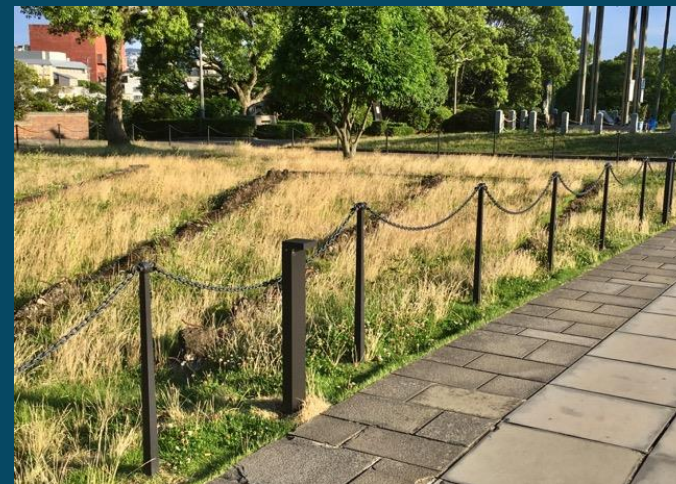
シンプルな形態意匠、周囲と調和した色彩、目立ちにくい配置を選択したライトアップ照明の事例

● 形態意匠

ライトアップ照明やプルボックス、配線、防犯灯、フットライト等の機器は、昼間に目立つことがないように、できるだけコンパクトな大きさ、シンプルな形状のものを選択して設置する。

● 色彩

ライトアップ照明やプルボックス、配線、防犯灯、街路灯、フットライト等の機器の色は、昼間に目立つことがないように、周囲の景観に合わせた色彩を選択して設置する。



シンプルな形態意匠、周囲と調和した色彩、目立ちにくい配置を選択したフットライトの事例

4-3. 夜間景観の質を維持する体制 「柳川照明調整団」

本基本計画に基づいて整備される夜間景観は、樹木や像へのライトアップが主要な構成要素となる一方で、それらの照明が船上と陸上の双方からグレアとならないように配慮が必要である。

ライトアップ照明は、時間の経過とともにその角度がずれていくことがあり、本基本計画策定に先立って行われた「柳川照明探偵団」においても既存のライトアップ照明の角度がずれて、当初設計通りに照らされていない、もしくは、グレアとなっている点を確認されている。

また、照明周辺の草木が伸びて照明がその機能を発揮していない場所もみられた。

こうした課題をクリアし、質の高い夜間景観を継続的に維持するためには、定期的な手入れが必要である。そのための市民活動として「柳川照明調整団」の設置を検討する。

「柳川照明調整団」は、照明器具の角度、点灯の有無、草木等の周辺環境の状態等を定期的にチェックし、必要に応じて維持管理行為を行う市民チームとなることを想定している。



角度がずれてグレアとなっている照明



草木が伸びて機能を発揮していない照明

参考資料：市民ワークショップ「柳川照明探偵団」における意見

市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について①実施概要（第1回）

柳川の夜間景観の良いところ(英雄)と改善すべきところ(犯罪者)を探す市民ワークショップ「照明探偵団」を2回にわたり実施した。なお、このワークショップは、照明デザイナーの面出薫氏をはじめ、株式会社ライティング プランナーズ アソシエーツの協力を得て実施したものである。

令和元年(2019年)5月9日に実施した第1回では、最初に夜間照明についての面出氏の講演を行った。その後、講演内容を踏まえて、観光客向けのコースを実際に船で川下りしながら、4班が二艘に分かれて船上から夜間照明の現状を調査した。最後に、発見した夜間景観の英雄と犯罪者を地図上にポストイットで貼り出し、全体で共有を行った。



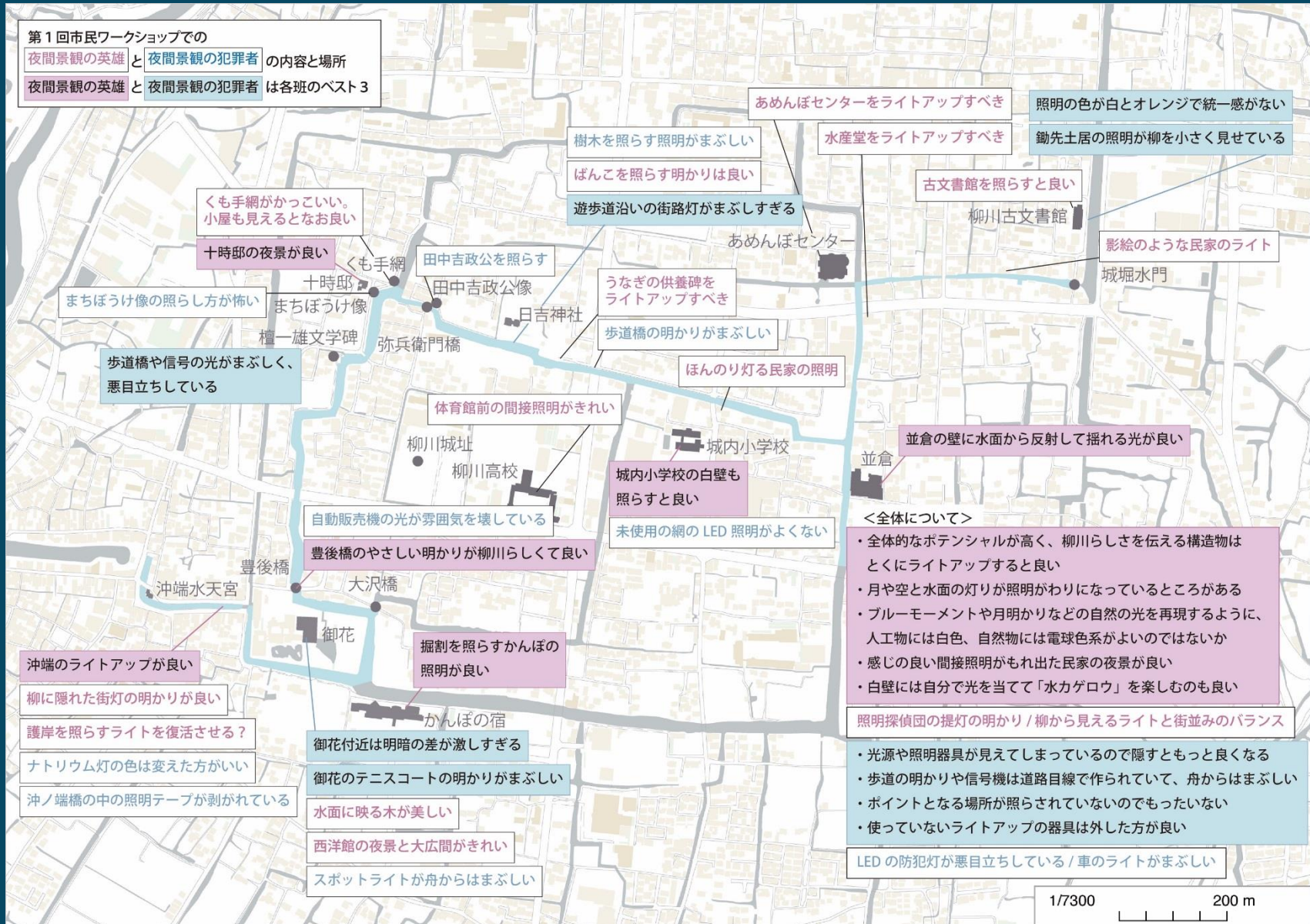
市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について②実施概要（第2回）

令和元年(2019年)6月10日に実施した第2回では、第1回で見た船からの目線と比較しつつ、道路からの視点で夜間景観の英雄と犯罪者を探した。4班に分かれて水路沿いを歩いて調査し、各班での発見や夜間照明についての提案は地図上にポストイットで貼り出し、参加者全員で共有した。

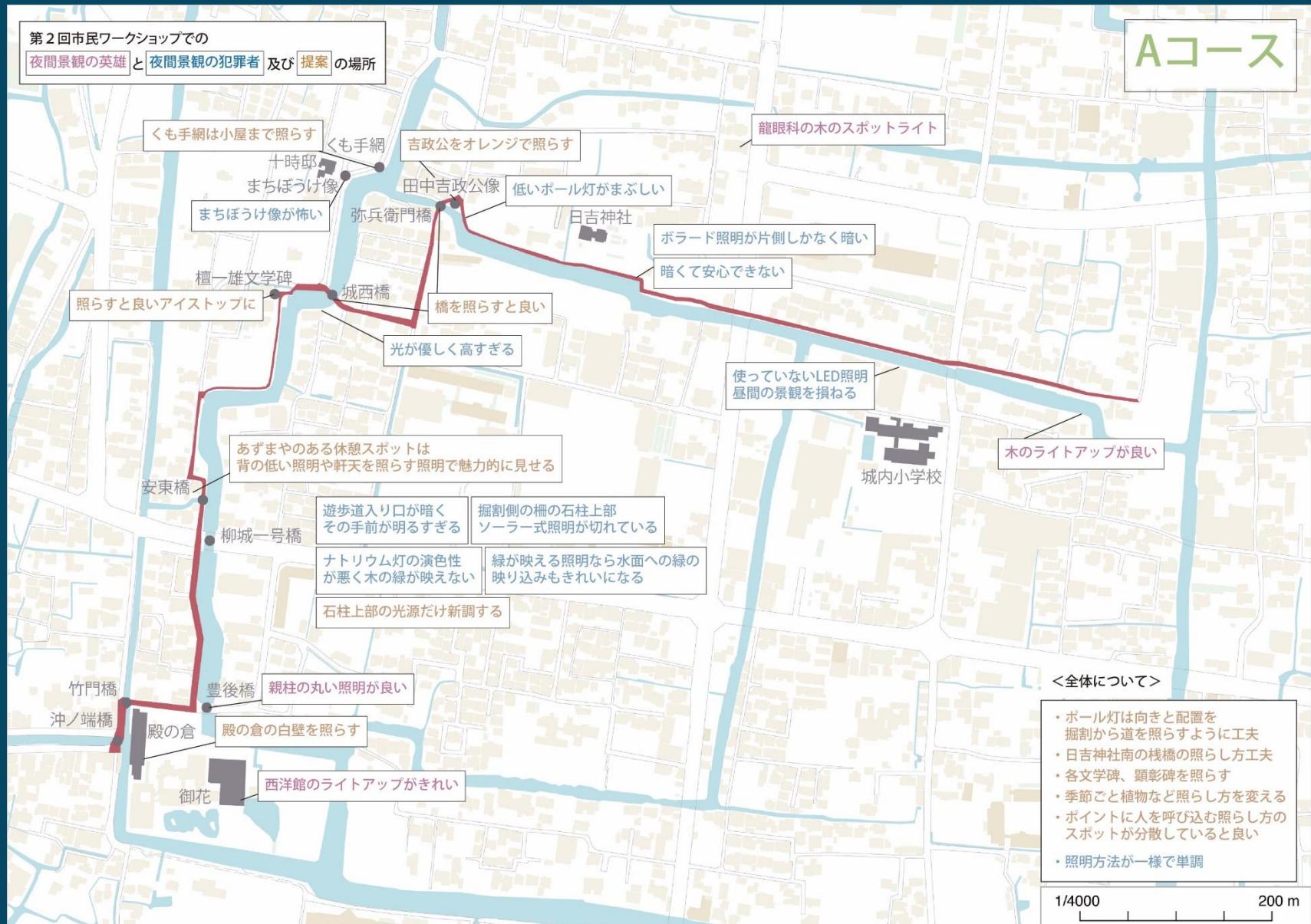
2回のワークショップによって、船上と陸上双方の視点から夜間景観の良いところ(英雄)と改善すべきところ(犯罪者)を、市民、行政職員、専門家で現地を回って発見・共有した。そこで出てきた意見を地図上に落としてまとめたものが次頁からの3枚である。



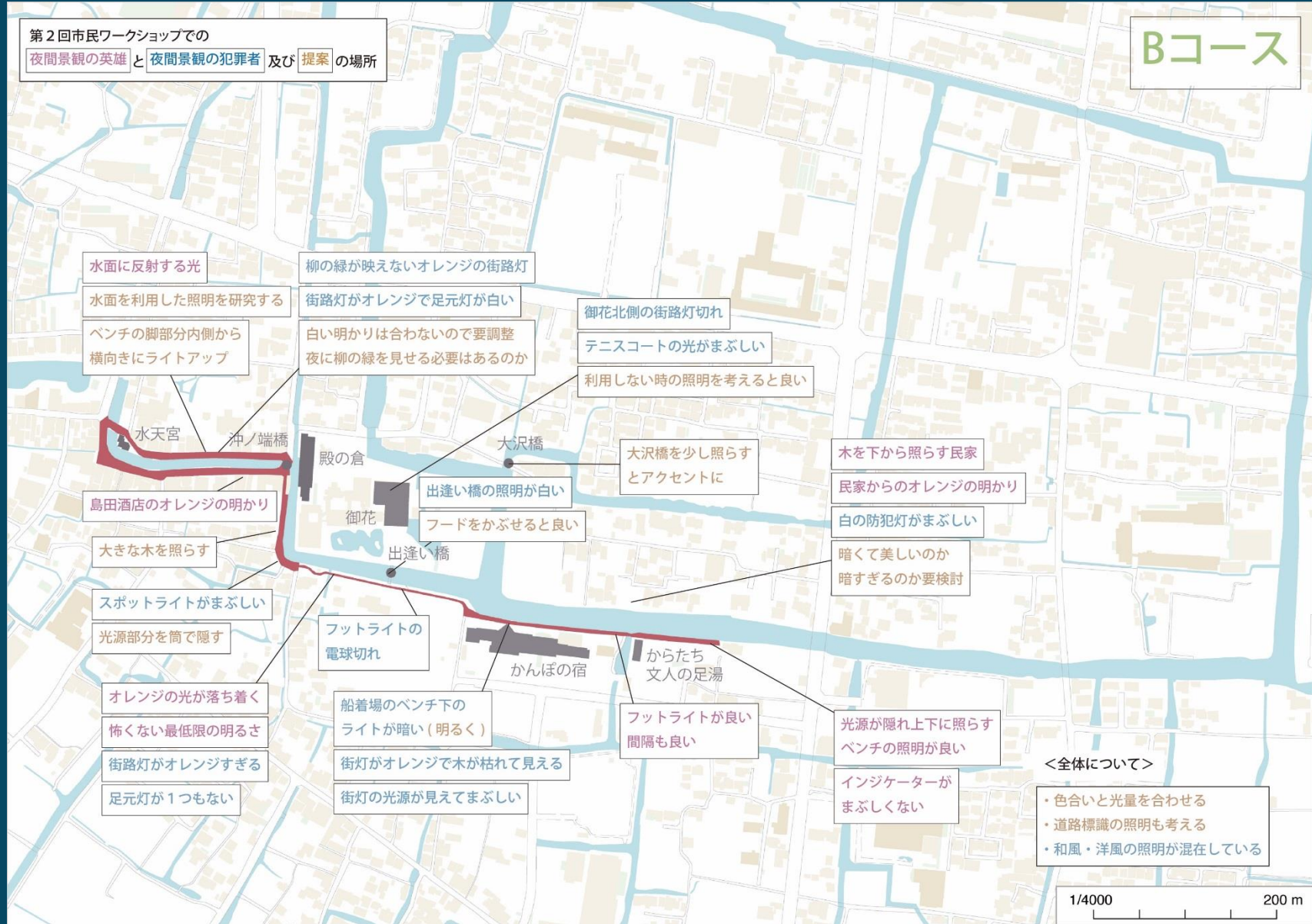
市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について③第1回意見のまとめマップ



市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について④第2回意見のまとめマップ



市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について⑤第2回意見のまとめマップ



市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について⑥「夜間景観の英雄」のまとめ

【夜間景観の英雄】

- ・ 美しい民家の明かりが所々で見られる。
- ・ 豊後橋の親柱の丸い照明が柳川らしくて良い。
- ・ 水面への木々の映り込みもきれいに見える。
- ・ 水面への照明の映り込みがきれいに見える。 (沖端)
- ・ 足湯〜かんぽの宿のフットライトは船上からも陸上からも美しい。
- ・ 御花の西洋館のライトアップがきれい。
- ・ 沖端のライトアップがきれい。
- ・ 月や空と水面の明かりが照明がわりになっている所がある。

市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について⑦「夜間景観の犯罪者」のまとめ

【夜間景観の犯罪者】

- ・ 白とオレンジの色合いの違う照明が混在している。(鋤先土居、沖端)
- ・ 未使用のLED照明が景観を損ねている。(城内小学校体育館前)
- ・ まちぼうけ像の照らし方が怖い印象を与える。
- ・ 御花のテニスコートの照明がまぶしい。
- ・ 歩道橋の光、防犯灯や街路灯などまぶしすぎるものがある。
- ・ オレンジ色の街路灯は柳の緑がきれいに見えない。(真っ白は柳川らしくないという意見も)
- ・ 暗すぎて安心して歩けない場所がある。(日吉神社～田中吉政公、出逢い橋～沖ノ端橋)
- ・ 光源が直接見えるとまぶしい。(かんぽの宿の街路灯、出逢い橋、御花南の樹木のスポットライト)
- ・ 沖ノ端橋や柳城橋の中の照明のテープがはがれている。

市民ワークショップ「柳川照明探偵団」について⑧「提案」のまとめ

【提案】

- ・ 柳川らしい構造物（あめんぼセンター・水産堂・うなぎの供養碑・古文書館など）をライトアップすると良い。
- ・ 並倉の壁は水面から光を反射させて映すときれい。
- ・ 城内小学校体育館や殿の倉の白壁は照らすときれいになる。
- ・ 日吉神社付近の遊歩道は、船からはまぶしい箇所と歩行者からは暗くて怖い箇所とがありバランスを考えた方が良い。
- ・ 田中吉政公像やくも手網の小屋をライトアップすると良い。
- ・ 橋をライトアップするときれいになる。(弥兵衛門橋、城西橋、大沢橋)
- ・ かんぽの宿の前のポケットパークのベンチをもう少し明るくライトアップすると良い。
- ・ 御花のテニスコートの照明は未使用時の工夫をすると良い。
- ・ 和風と洋風さらに白とオレンジの色合いや光量を合わせて統一感を持たせると良い。
- ・ 一様な照明にならないように見所を分散させるべきである。
- ・ ブルーモーメントや月明かりなどの自然の光を再現するように人工物には白色を自然物には電球色系を使ってはどうか。

「名勝水郷柳河」主要川下りコース沿いにおける夜間景観基本計画

発行／令和2年(2020年) 3月

柳川市 福岡県柳川市本町87-1 TEL 0944-73-8111

共同研究 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター

株式会社Takebayashi Landscape Architects

株式会社ライティングプランナーズアソシエーツ